

ロボケが こわれちゃった



ぶん・楠 ^{くすのき} ^{あきこ} 章子 え・オカダ ケイコ

監修・国立モンゴル医学・科学大学 歯学部 客員教授
岡崎 好秀

きょうは、ふたつも、
わるいことがおきた。



は
歯がいたくなった。
それから、



ロボタが、こわれちゃった。

パパが、ロボタをなおそうと
してくれたけれど……
だめみたい。



「ロボタ……」
なきそうなぼくを、ママが なくさめてくれる。
「きつとなおるわよ。」

あした、
ロボットのおみせに、
いってみましょう」



おにいさんは、
ロボタのおなかをひらいて、いった。
「あーあ、こりゃだめだ」
「なおらないの?!」ぼくは、たずねた。



おにいさんは、
「もっといいのがあるよ、
これなんて、どうだい？」



と、あたらしい
ロボットを、ならべる。



これも、これも、これも、
……ちがう。

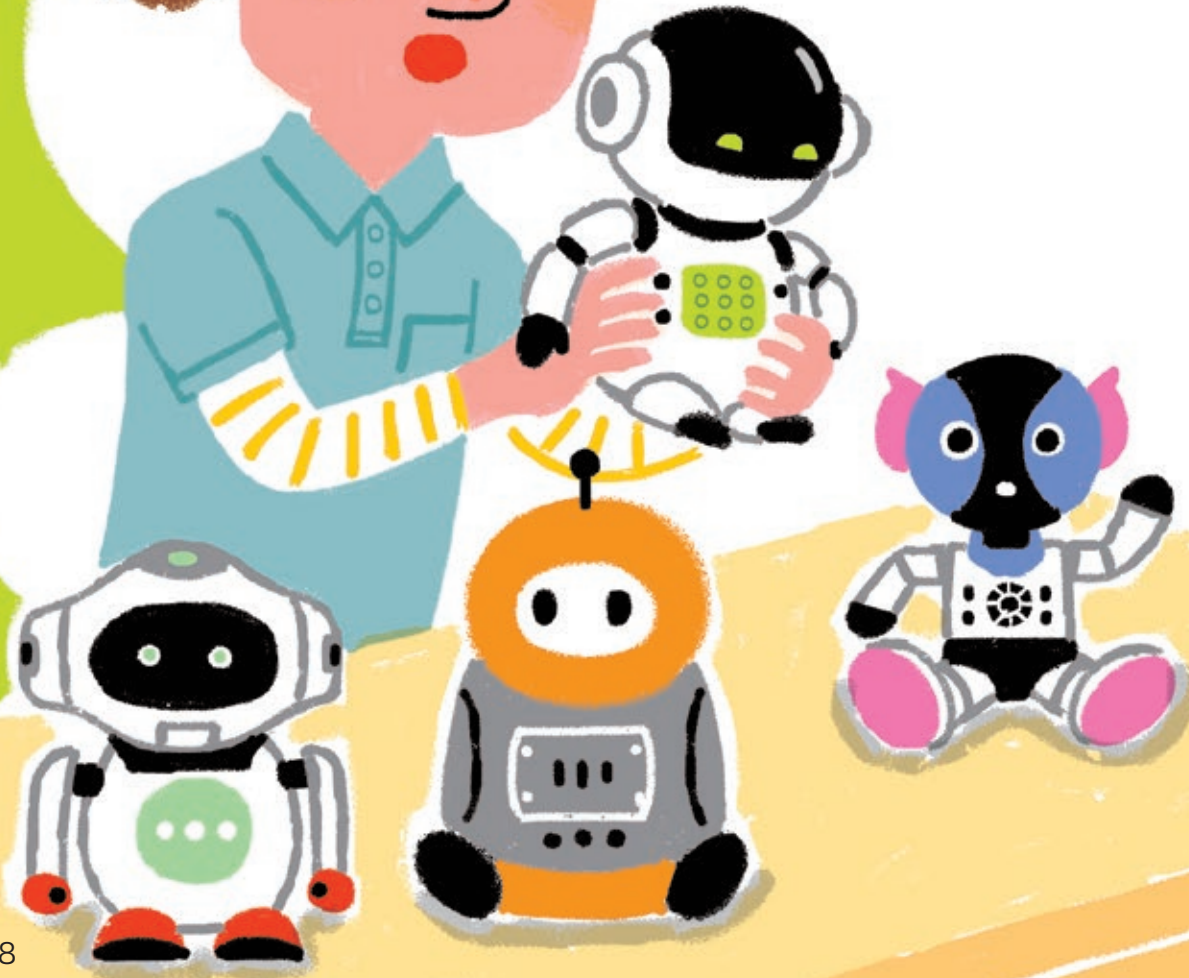
「ロボタじゃなきゃ、やだ！」

ぼくは、さけんだ。

おにいさんはおどろいて、おくから、
ちがうのを もってきた。

「ほら、これなら、おなじだよ」

おなじ？



きずがない、へこんでない、まがってない、
かおがちがう！

にってるけれど、これは ロボタじゃない。



「ロボタがいい。あたらしいのなんて、いらない」
ぼくは、ロボタを だきしめた。
あああ、^は歯まで いたくなってきた。



「でも、こわれちゃったんだからさ」
パパは、こまったかおをしている。

そのとき……

「ひらめいたわ！」

と、ママが
め
目をかがやかせた。

おじいちゃんのところに、
いってみましょう」

おじいちゃんは、
ふるいものにかこまれて、くらしている。



おじいちゃんは、なんでも
なおしちゃうんだ。



「どれどれ」
おじいちゃんは、
ロボタのおなかを
ひらいたり、
て手をうごかしたり、
あしを
うごかしたり。

がちゃがちゃ、
がちゃがちゃ



ぶいーん、
ぶいーん

「アソボ、ボク、ロボタ、アソボ」
わーい、ロボタがうごいた！

さすがおじいちゃん。
すごい。



「ものを だいじにするのは、とてもいいことだぞ。
これまで いろんなものを、なおしてきたが、
わしのじまんは、これじゃ」
おじいちゃんが、^{くち}□をあーんと あける。



うわあ。いっぱいなおしてある。
「さすがに、これは、
じぶんではなおせないけどな」
わっはっはと、おじいちゃんはわらった。
あ、そうだ。
ぼく、^は歯がいたかったんだった。



